

県内ものづくり企業の早期復興を支援する溶接技術高度化事業

－平成 28 年度東日本大震災復興推進基金活用事業－

Improvement of welding technique to support manufacturing industry in region affected by disaster

加藤大樹、佐々木正司

溶接は、作業者の技能レベルが加工品質に大きく影響する加工技術であり、優れた品質を得るためには作業者自身に高い技能が求められる。一方で、震災以降は復旧関連事業の増加などで新規求人数が伸びているものの、一部の熟練溶接技能者においては県外へと流れるという状況もあり、企業での人材減少は否めない。

その結果、技術不足のため継続的な受注に結びつかない場合もあり、業界として需要があるにも関わらず受注は減少し、未だに厳しい経営が続いている。特に、震災以降の低迷に喘ぐ八戸圏域の業界では人材の不足と技能の向上が切実な問題となっている。

そこで本事業は、八戸地域研究所に溶接技術やその評価に係る研究開発拠点を構築し、八戸地域を中心とした金属、鉄工関連業界における溶接技術向上を促進し、早急な人材育成と技術支援を行うものである。

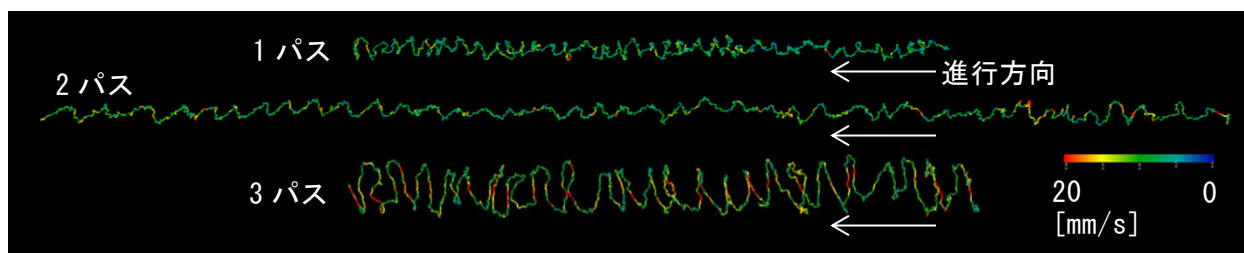
今年度は半自動溶接機およびモーションキャプチャシステムを導入し、半自動炭酸ガスアーク溶接におけるトーチ動作と技能レベルとの関係性を明らかにするための環境を整備した。また、県内企業を対象として溶接技術に関する講習会および実習を開催した。



モーションキャプチャシステム
(溶接作業計測時の配置例)



実習の開催



トーチ先端の軌跡